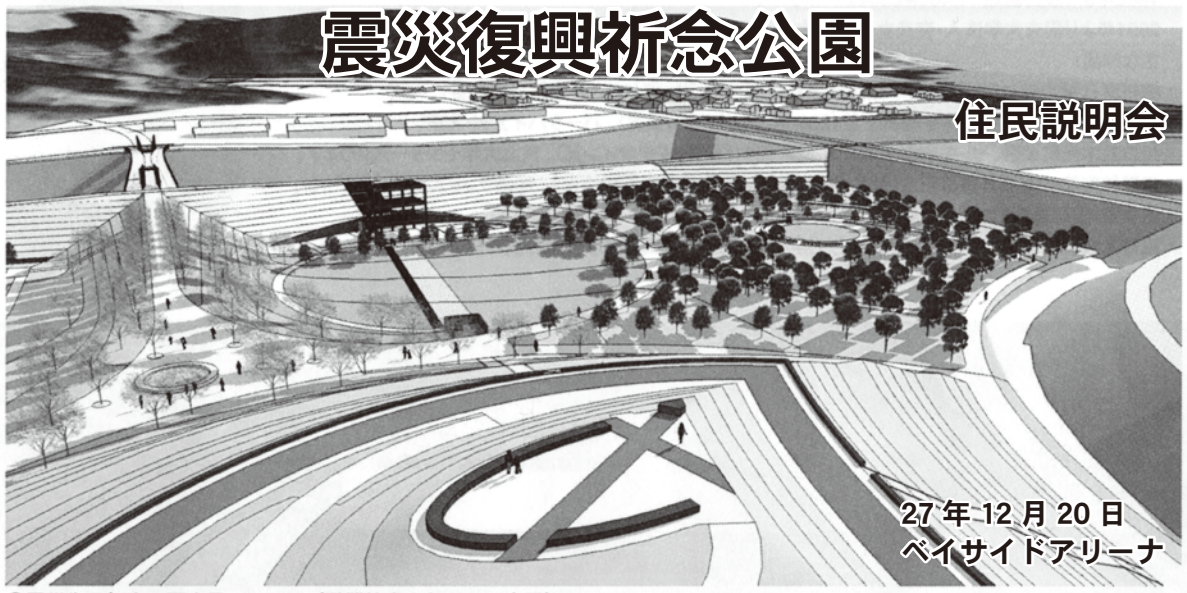
がんばろう
南三陸町
復興第 46 号

南三陸マイタウン情報 月刊

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
志津川広報センター
企画・編集　千葉伸孝

震災復興祈念公園 住民説明会



①震災復興祈念公園全景イメージ（避難築山上部からの鳥瞰）

交流文化ホールには住民が約 40 人集まり、公園整備の概要が復興市街地整備課から説明があり、引き続き設計を依頼された奈良女子大学の宮城俊作教授が公園整備のコンセプトと具体的な整備内容について説明を行った。

宮城教授の説明のはじめに「27 年春に仕事を受けた」と話し、祈念公園は町民憲章の「大きな自然の手のひらに、いだかれる南三陸町」の一文をイメージし設計したと語った。6.1ha の祈念公園のコンセプトは、犠牲者への追悼と記憶の継承と自然への感謝と住民の協動と話す。

設計を依頼された奈良女子大の宮城教授が集まった住民に丁寧に説明した

20 ㎝の「築山が根幹」で頂上からは町の風景のパノラマが見え、荒島・椿嶋が一直線となる軸と、防災庁舎と第二庁舎の基礎も、海抜１ｍの場所はずっと残る。春夏秋冬の木々の変化と共に長く残す物とした。

説明会に参加した町民からの質問に、①築山への屋根付きのシェルターと避難者救出のヘリポートが欲しい ②公園からの避難所は高校なのか ③築山の坂に津波の時系列を移した方がよいのではないか ④築山に灯をともしたらどうか（被災した庁舎に津波襲来後に暖を取った火を灯したイメージで）⑤防災庁舎の県有化 20 年に解体となった時は ⑥全国から寄付された木々を植えては、等６名の質問に宮城教授が答えてくれた。

地区で季節の集まりを通し共に生きる

志津川大森の話題から

年末の 27 日に志津川大森の星さんが情報をくれた。「さつきが咲きました。みんなで集まり卵酒でお花見をして元気を貰いました。」こんな話題だった。

志津川魚市場から大森の高台に通じる入口に星さんの家はあった。自宅から下は津波で全ての家が流され、一部損壊や電気・水などのライフラインが崩壊した。約 10m 以上の津波が地区の入り江まで到達した。家にあった 100 鉢ものさつきが流され、今回そのうち 30 鉢が残った。その鉢の一つ

元気をくれた一輪のさつき

が今年の暖冬と言われる温かさで花芽がほころびたと言う。楽しい事や嬉しい事・悲しい事があると、大森の近所の人達が集まる場所でもあった。

息のあった餅つき

大森地区の老人会の仲間が寄り合い、津波以前は一人暮らしの地区のご老人に季節の行事として、大正琴のイベントやお弁当を振る舞うなど、活発な活動は震災前から仲間たちと開催していた。今回の津波により仲間の一人が亡くなり、震災から 2 年後の 3 回忌にあたり、みんなで市場に集まり花を海へ流し、線香を手向けその供養もおこなった。

地域の活動は震災後も続いていた。「地区の 12 人が寄り合って 12 月 28 日は恒例の餅つきをするんです。」と言う。星さんの自宅に向かうと小高い家の方から「コツン・コツン」と聞き覚えのある音が聞こえてきた。30 段ほどの石段を上ると、臼と杵を使った餅つきをしていた。現在は「餅つきは大変」と、時代は餅つき機へと変わり、寂しさが増していた。「今日は八臼つくんです。」と言う。

みんなでお正月の重ね餅作り

子ども達も参加し小さな供え餅を作っていると、ふざけて餅で遊ぶ子におばあさんの『怒る声と手が飛ぶ』。こんな地区の家族の営みが以前はどこにもあった。志津川地区民がバラバラになって、年末の地区行事の「餅つき」が今は薄れている。初めは「きなこ餅」で、臼で搗きたての餅に「黄粉」をまぶし、砂糖を掛けたもので、子供達はモジモジと「食べていいよ」のおばあちゃんの声を待つ。「ふざけてないで」とストーブの前の子供たちを危険だと叱る。私もお相伴で今年初めての杵搗き餅をご馳走になった。「あんこ餅もあるがら食べていがいよ。」と星さんが声を掛けて来た。こんなにも地区民が集まり正月前の行事が震災後も繰り返し行われている事に、少し安堵な気持ちが芽生えた。

きなこ餅

入谷地区で新たな農産品への挑戦

キャベツ生産

入谷地区の農業家の鈴木さん（中の町）は、昨年から新たな地場産品として「キャベツ」生産に力を入れ、今年で２年目を迎えた。

入谷地区の農家８軒で「8000 玉」のキャベツの出荷目標を立てている。出荷先は山形県「ながい市場」と、17 年に新井田地区に出店を予定する「ウジエスーパー」（登米市）で、季節野菜として安定出荷を目指し、露地物からハウス生産と、需要に対応できるよう「YR 春系 305 号」と「タキイ交配あさしお」の２品種を生産している。

「黄金郷菊」の生産地として発展してきたが、外国から格安菊が国内入荷となり、価格低迷により新たな生産品として、キャベツ生産が安定収入へと期待されている。

鈴木さんは入谷地区での生産にこだわり、仲間と新しい生産品の発掘に力を入れ、観賞用の「はなもも」の生産出荷にも力を入れている。

ピックアップ 10 月の記事

南三陸町は県内有数のサケ水揚げを誇る。今年はサケの遡上の激減があり、採卵確保に努める増殖協会は 11 月の網揚げの実施を求めている。一部の業者は他からの種卵や稚魚の確保ができなければ、網揚げの効果はないと、増殖協会に協力できないと否定的だ。網揚げの実施は不透明ながら資源管理の在り方を問う声も上がる。

南三陸町の総合戦略会議の席上で「45 年後の人口 7,200 人」と、将来の人口目標値案をまとめた。転出抑制や出生率向上の施策を講じたことでの前題としての数字だ。現在 14,000 人から 45 年後には人口は 7,200 人となり、この数字を見据えた戦略づくりに反映させる。

被災した戸倉小学校（山内順校長･生徒 69 人）が、新校舎で４日から授業を始めた。木材をふんだんに利用した校舎、そして南三陸産材を活用した真新しい体育館には、子供たちの校歌が響きわたった。

南三陸町の杉などが環境に配慮され適切に管理されているとの、国際認証「ＦＳＣ」が県内で初めての取得となった。森業管理協会が７日付けで決定した。今後は５年後の東京五輪の国立競技場建設にあたり、ブランド化による活用が期待される。

南三陸町では 19 日から、生ゴミの再利用に向け「分別収集」を開始する。バイオマス事業として、志津川地区に専用プラントを整備し、加熱、発酵処理でバイオマスガスと液肥に分解する。発電や発熱供給に再利用したり、有機質肥料としても環境保全型農業につなげる。

南三陸町では 18 歳～ 39 歳までの住民の生活環境意識調査を実施した。対象者は2,334人で、その内 711 人が回答を寄せ、回収率は29.2％だった。調査では若者の７割が不満を感じ、施策では買い物の利便性の向上が一番多く、10 代の４割が町外での就労を希望している。今回の調査は次期総合計画に反映される。

未来への教訓

復興！　大津波の記憶を風化させない

平成27年（2015年）10月の出来事

～ 地元報道より ～

◇南三陸町内の国道２路線が一部供用開始となった。志津川地区は五日町から新井田間の国道 45 号の 840mが１日に開通した。戸倉地区は県が整備する国道 398 号の折立から戸倉団地までの 900mが２日に開通となった。

◆気仙沼市は震災後５年間で最高の税収となり、以前の「89.9％」に達した。個人の所得が上がったためと税務課では分析している。

◆気仙沼市本吉町小泉の「シーサイドホテル」の解体が完了した。今後は観光の南三陸の目玉としての「小泉海水浴場」の再開を目指す。

◇南三陸町では指定避難所の志小・志中・歌中の各体育館を避難者が「直接開錠」できるシステムを県内で初めて導入した。管理人が不在でも「専用ボックス」から自動で鍵が取り出せる。

◆気仙沼市魚市場を約 107 億円で大成建設と小野良組のＪＶが落札した。完成は 29 年３月を予定している。

◇南三陸町の志津川・歌津の商店街の再建にあたり、２日に国が「まちなか再建計画」を認定した。29 年３月の開業に向けて大きな前進となった。

◆気仙沼市の観光に取り組む「リアス観光創造プラットホーム」が水産業の復興に貢献したとして、観光庁長官から表彰を受賞した。

◇南三陸町では「広域避難計画」を策定して初めて、原発事故を想定した訓練をおこなった。

◇今季のサンマ漁の分析によると、不漁の上にサイズも小さいとダブルパンチに泣いた。郵便局の「サンマパック」もサンマを確保できず、期間途中で終了となった。

◆サンマの不漁の中で気仙沼市の「目黒のさんま祭」が節目の 20 年を迎えた。０泊３日でバス３台でのスタッフの活動は厳しいが充実していると言う。来年は実行委員会での単独開催となるが、30 年 40 年と続けたいと話す。

◇今年も「南三陸町福祉まつり」が総合体育館アリーナで、20 の団体が参加して４日開催された。福祉ブースが並ぶ中で、職員による「認知症の対応」として寸劇も披露された。また、志中生徒による募金活動がおこなわれた。

◆今年の気仙沼市大川でのサケ漁は５日から始まり、初日は上々で 200 匹の漁のスタートとなった。

◇志津川中でオペラ歌手の中鉢聡さんが「東北希望コンサート」を５日開催し、第９の合唱で生徒たちは本格的なオペラに触れた。

◆気仙沼市では国保の加入者が減少し、医療費の増加で市財源が一層厳しくなっている。理由には、震災復興により社会保険への加入移行が原因の一つに上げられる。市の人口は 66,929 人（－62）世帯数は 26,219 戸（＋13）と９月現在の数となり、市民の減少と市への新しい流入が、その数に表われている。

◇南三陸町・気仙沼市の任期付き職員の応募が低調だ。両町で 17 人の募集数に対して１人しかいない。行政の厳しい被災地復興の現実がある。

◇南三陸町のさんさん商店街隣りの、ＵＲ都市機構の「復興情報センター」の入館者が１万人に達した。復興の進捗が１目でわかると来館者には好評を得ている。（開館は昨年３月）

◆サンマが台風の影響で品薄となり、「㌔ 3,300 円」に高騰した。

◇南三陸町は健康増進・食育推進計画を、これまでのコンサルタント委託から、住民主導への計画の策定を図る事とした。

◆第 53 回本吉地方弁論大会で、最優秀賞に伊藤さん（新月３年）と優秀賞の熊谷さん（階上３年）が県大会へ進み、11 月に志津川中学校で開催される。

◆気仙沼市は税金の滞納額のうち１億円を不能欠損額として徴収ができないと消滅した。今後は未納金の徴収対策が急務。

◇本吉地方の危険業務従事者として、錦部照夫さん（65・志津川深田）が瑞宝双光章を受章した。長年にわたり火災予防活動に尽力した。元広域消防指令長として、気仙沼・本吉地方の住民の火災防災に取り組んできた。

◇南三陸町入谷地区に 12 月 6 日にオープンを予定しているビジネスホテル「アイルーム」の建設が現在進んでいる。１泊 6,200 円～で、70 室を提供する。

◆イングランドで開催されている「ラグビーワールドカップ」の１回戦の南アフリカと対戦した日本チームは歴史的な勝利となり、リーグ３勝を上げたが５チーム中３位に終わり決勝リーグには進めなかった。チームの一員として気仙沼市出身の畠山健介選手（30・サントリー所属）は、全試合の出場で日本チームの勝利に貢献した。

◆気仙沼魚市場のサケの水揚げが、一気に９千 500 本も上がった（13 日）。大川の遡上も順調で採卵も良好。定置網での浜値はメスが㌔ 684 円でオスは㌔ 359 円だった。うち南三陸は 2,700 匹にものぼった。

◇ＪＡ南三陸の米の集荷がピークを迎え、管内の一等米の比率は８割だった。

◆気仙沼市の災害公営住宅の空きが 189 戸にのぼった。12 月にも入居者追加再募集をする予定だ。

◇志津川小森の「シロサケふ化場」が、19 日落成式が開催される。課題として卵の確保が上げられ、被災前より 200 万匹多い 500 万匹を育成する。昨年のサケ水揚げは 1,847 トンで金額は８億 3840 万円で、水揚げ量は市場全体の２割で金額は約４割を占めている。稚魚の放流は１千万匹と予定している。

◇南三陸町の事業予算として今回は前回よりも約 11 億に比べ、43 億増の 54 億 8400 万円とした。内容は志津川地区の中央区と東区の災害公営整備事業に約 49 億円と、復興祈念公園関係に約４億円をあてる予定としている。

◇歌津泊浜荷さばき施設の建設が進んでいる。総額 1,200 万円のうち地元契約金が 200 万円、ＮＰＯ「現役ネット」と福岡市ライオンズクラブから１千万円の支援金を施設復旧にあてる。

◆大震災後に初めて開催された「秋刀杯気仙沼剣道大会」（11 日）で、歌津道合剣道の小学生低学年と中学生男子が３位に入った。また、唐桑町剣道会Ａが男女共３位となった。気仙沼・本吉地方でも小中の剣道スポ少の団員の減少で、今回は３人制のチーム編成となった。

◎宮城県議会議員選挙が 16 日告示となり、復旧・復興の決意を訴える第一声が気仙沼・本吉地方であった。気仙沼出身の５名が立候補したものの、南三陸町からの立候補はなく、気仙沼市の現職の内海氏も出馬しなかった。

◇南三陸警察署では、孤独死や犯罪から高齢者を見守る「よりそい隊」を結成した。署員や安全指導員 40 名で組織する。

◇新石井国土交通大臣、初の気仙沼市・南三陸町を訪問。復興加速に全力をと話す。

◇南三陸町バイオマス事業拠点「南三陸ＢＩＯ（ビオ）」の施設が完成し、16 日に関係者 80 人が集まり落成式典をおこなった。施設を運営する「アミタ」の熊野社長は「森・里・海・街・人と自然がつながる豊かなまちづくりに貢献できる施設にしたい」と語った。

◇南三陸町歌津地区の「交通死亡事故ゼロ 500 日」にあたり南三陸署から感謝状が贈られた。

◇「南三陸応援団」の４月の結成から半年で登録が 1,000 人を超えた。関東圏が半数を数え、ボランティアから観光交流を目的に結成した。17 日は神戸市で団員限定のイベントも開催され、再来町による訪問に手応えを感じている。

◇三陸道「登米志津川道路」（16.1k）の開通が年度内から新年度にずれ込む事が分かった。理由は９月の豪雨で法面の亀裂や、形状の変異が見られるためという。

◆気仙沼保健所管内において、飼い犬に咬まれる事故が増えている。半年足らずで４件発生し、昨年の５件にあと１件とせまった。咬傷事故で２週間入院するケガも発生している。

◇南三陸町の新たな市街地形成のまちびらきエリア（3.7ha）のうち、八幡川左岸の観光ゾーン（２ha）の造成が完了した。完成記念の見学会（24 日）が開催され、「さんさん商店街」の店舗を中心に 32 店舗が入居し、29 年３月のオープンを予定する。

◇南三陸町の 10 年間総合計画案がまとまった。それによると 37 年度の人口目標を、１万４千人から２割減の１万 1600 人に設定し、交流・定住人口拡大や南三陸ブランドの確立など、重点施策を実施するなどを盛り込んだ。

◆気仙沼市は中３まで通院費無料を、子育て支援として 11 月から実施する。

◆気仙沼市の小野寺さん（73）は遠洋マグロ船に通信長として２年間の航海へ、11 月２日に出発する。「若者には負けられない」と古希を過ぎてもなお現役として活躍している。

◇南三陸町総合体育館で男子プロバスケットボールｂｊリーグ「仙台８９ＦＲＳ」の公式戦が４年連続で開催された。無料招待で約 1,300 人が集まった。プロの早さにまじかで触れた。結果は、福島ファイヤーズに 97－95 の近差で勝利した。

◆気仙沼唐桑観光協会は、宿泊付のツアーを商品化し、民宿と連携し集客を担う。

◎県議選の気仙沼・本吉選挙区（定数３）の25日の投票結果

当	守屋守武（56）無所属・新	１３１５６票
当	畠山和純（69）自民・現⑥	７５９６票
当	境　恒春（36）維新・現②	６５５１票
次点	山崎　哲（47）新	３８３９票
	斉藤巳寿也（50）新	２３７４票

◇「みやぎ花のある町コンクール」において、南三陸町の町営枡沢復興住宅、平成の森仮設住宅団地自治会の２団体が入賞した。

◆気仙沼市の 27 年度上期のふるさと納税状況が発表され、件数では昨年の３倍と金額では２倍近くとなった。現在件数は 3,696 件と金額で 4,856 万円となり、市の貴重な財源としてだけではなく、物産品のＰＲにも有効となっている。全国自治体の「ふるさと納税」の競争は激化している。

◇南三陸町と兵庫県三田市の合同での炊き出し訓練が、24 日南三陸消防署で開催された。三田市のコシヒカリ 30k と特産の黒豆を「南三陸町婦人防火クラブ」と三田市の関係者で炊き出し訓練し、防災を通した震災の風化防止と交流を深めた。

◇南三陸病院とケアセンターの建設にあたり、11 月には落成式や見学会を予定し、12 月 14 日の開業に向け着々と準備を進めている。

◇南三陸町は歌津の枡沢災害公営住宅の「カビ問題」で、被害が確認された６世帯に対して４ヵ月分の家賃を還付する事を決めた。６世帯で４ヵ月平均で 16 万 3600 円を 11 月中に入居者に還付する。

◇南三陸町では合併 10 周年にあたり、11 月３日に 300 人が出席し記念式典を開催する。名誉町民として高橋長偉氏ほか８個人を表彰する。

◆気仙沼港のサンマ漁は不漁で水揚げも半減し、サイズも小さく価格も高騰し、加工業者は手が出ないと言う。この時期は㌔ 100 円以下ながら相場は 200 円を超えている。

◇気仙沼・南三陸のキノコ・山菜の生産者が、組織で安全な生産をと、24 日 16 人が集まり連絡協議会を立ち上げた。

◇南三陸町の「高齢者スポーツ大会」が 28 日開催され、志津川・入谷・戸倉・歌津の会員が町内や仮設住宅から 180 人が集まり、再会を喜びあい楽しい時間を過ごした。

◇三陸沖のカツオ漁が 10 月に入っての低気圧の影響で、カツオの群れが見えなくなり昨年に続き１ヵ月も早く終漁となった。

◇女川原発事故を想定した「原子力防災訓練」が 30 日、原発被災が懸念される戸倉地区の住民 300 人が参加し、南三陸町の「避難計画」の策定後に初めての防災訓練が実施された。

南三陸町内の地域や個人の情報がありましたら、寄稿・町への要望など受け付け、広く情報を発信致します。
TEL 0226（４６）３０６９
志津川広報センター　千葉まで